

研究主題「読書に親しみ、ともに高め合う子どもの育成」 ～読書活動を取り入れた授業づくりをとおして～

白石町立北明小学校 校長 黒木 正孝
研究代表 里見 博章

1 主題設定の理由

近年、さまざまな情報があふれる社会にあつて、人の気持ちに思いをはせ、言葉によって自分の気持ちを表すことが苦手な子どもたちが増えつつあることが大きな問題となっている。いじめ等の問題も日常生活におけるコミュニケーションの欠如や人間関係の希薄化が大きく関係していると思われる。

そのような中、学校教育に対して、豊かな人間性と確かな表現力の育成がますます求められている。そのために言語活動の充実を図り、思考力や判断力、表現力等を高めていくことが必要だと考える。

本校の児童は、個人差はあるものの個々の読書量は増え、日常的に本と関わる姿が見られるようになってきた。しかし、読む本のジャンルがかたよっていたり、読解する力や読み取ったことを表現したりする力は十分でなく、語彙の不足を感じることも多い。また、平成23年2月に実施したCRT検査から以下の実態が明らかとなった。

【CRTの結果より】(H23.2月実施) 全国比より劣っている項目

- (低学年)・大事なことを聞き取ること、文章の間違いを正すこと、場面を想像しながら読むこと
- (中学年)・順序を考えながら大体を読む、場面を想像しながら読む、内容を考えながら音読する
- (高学年)・話し手の意図を考えて聞くこと、意図・立場を明確にして話し合う、物語の要旨をとらえること 等 全学年ともに読解力をつけることが課題となった。

読書は、幅広い知識や表現力を高め、考える力を養い、豊かな感性や情緒とともに想像力を豊かにしてくれるなど、児童の成長にとって欠かせぬ大切な営みである。また、「驚きと感動」を味わう読書活動は、生きていく上でとても重要であり、集中力、読解力、創造力、表現力、語彙力を養い、国語だけでなく他教科も含めた学力向上へと繋がると考える。本校では、読書の習慣を付けることによって言葉を豊かにし、そこで得た知識や感動、自分の思いや考えを表現できる子どもの育成をめざし、本主題を設定した。

<主題のとらえ方>

- 『読書』とは、本・雑誌・新聞などの連続テキスト、写真・図・表などの非連続テキストなどあらゆるテキストを読むことと捉えている。
- 『読書に親しむ』とは、読書が好きで、日常的に本と関わっていることと考えている。具体的には、「自分から本を手にする」「本のおもしろさを感じる」「自分で読みたい本を選ぶ」「いろいろなジャンルの本を読む」などの姿と捉えている。
- 『ともに高め合う』とは、友だちや多くの人と互いに意見を交流したり、一緒に活動したりする中で、ともによりよい考えや方法を見出していき、これからの自分の生活に生かしていくことと捉えている。
- 『読書活動』とは、目的、内容、方法を持つもので、教師が意図的・計画的に児童に出会わせるものと捉えている。

2 研究の目標

- 読書活動を取り入れた単元づくりに取り組む。
- ともに高め合うためにコミュニケーション活動を取り入れた授業づくりに取り組む。
- 児童が読書に親しんでいけるように日々の読書活動を計画的・継続的に行う。

3 研究仮説

読書活動を取り入れた授業づくりや、継続的・計画的な読書環境づくりを行えば読解力や表現力が向上し、相手や目的に応じて自分の考えを豊かに伝え合うことができるであろう。

4 研究の内容

(1) 読書に興味を持ち、楽しく取り組めるような読書活動の充実（読書に親しむ）

- ① 日常的な読書の指導を行い、読書の習慣化を図る。
 - 朝読書の充実… 10分間読書（毎週水曜日）やよい会、保護者、教師による読み語り（毎週木曜日）
 - おすすめの本の活用… 「北明おすすめの本100選」や低・中・高学年別に「お薦めの本」を選定。多読賞の発行
 - 図書室、学校内の環境整備… 児童が本を手にしやすい環境づくり
 - 音読・読書カードの活用… 全児童に配布
 - 図書委員会による取り組み… 読書郵便・しおりコンクール・図書クイズなど
 - 担任による読み語り・ブックトークの継続
 - ほかほか交流… 友だち同士や異学年交流
 - いきいき交流… 地域の人たちとの交流（施設訪問など）
 - 音読集会… 全ての学年が音読の発表を実施
- ② 家庭・地域との連携を図る。
 - 家読デーの推奨（ノーテレビ・ノーゲームデーの取り組みと合わせて）
 - 「図書館だより」の発行
 - 公共図書館（ゆうあい館）との連携
 - やよい会（地域の読書ボランティアグループ）、保護者との連携

(2) 読書活動を取り入れた授業づくり（ともに高め合う）

- ① 国語科を中心に読書活動を取り入れた単元づくり
 - はじめ（事前動機型）、なか（並列情報型）、まとめ（日常発展型）に読書活動を取り入れた単元構成の工夫を行う。
 - 各教科・領域の年間計画に読書活動を位置づける。
- ② 言語活動を充実させるための授業づくり
 - 課題設定を工夫し、子どもが主体の授業を仕組む。
 - 教材や教具を工夫し、子どもたちが学びやすい環境をつくる。
 - 自分の考えを持ち、友だちの考えと比べながらともに高め合えるような授業を仕組んでいく。

5 研究の方法

- 研究授業を通して理論の実践化と研究授業。
- 講師招聘による理論研究と授業研究。
- アンケートによる実態調査や学習状況調査、学力調査等の結果を分析。
- 先進校視察による理論・実践研究。

6 研究の実際

(1) 授業における読書活動の研究と実践

① 読書活動の具体化

指導する教師側がどのような読書活動を取り入れ、授業を展開するかを明確にするため、読書活動を取り入れた授業づくりを単元構成や1時間の授業の中で次の3つの型を設定し、実践するようにした。

	学習過程	目指す児童の姿
【事前動機型】	○ 課題設定場面で物語、伝記、図鑑、新聞記事などの活用を活用する	○ 読書に関心を持つ ○ 視野を広げる ○ 状況を把握する ○ 目的（あこがれ）を持つ

		○生活から興味を持つ
【並列情報型】	○いろいろな資料を探す ○いろいろな資料から選ぶ ○資料からより詳しく調べる ○友だちの考えや資料と比べる	○友だちの考えや資料をもとに自分の考えに生かす ○表現方法を増やす
【日常発展型】	○発展的な課題	○（読書生活や自分の生活を）振り返る・変える・広げる・生かす

② 読書活動を取り入れた授業実践

(ア) 「事前動機型」を中心に

a 単元名 「ことわざを全校に紹介しよう」 平成 25 年 2 月 6 日 実践

教材文 光村図書 4 年下 「ことわざブック」を作ろう

b めざす読書の姿

ことわざや故事成語などに興味を持ち、「言葉」に関する本を進んで読む子ども

c 本単元・本時における「事前動機型」について

単元に入る前にことわざや故事成語を中心に慣用句や四字熟語などを含めた「言葉」に関する本を「学校図書館」「ゆうあい館」「エイブル」から借り、教室に置いておくことで、子どもたちがいつでも本を手にするのできる環境をつくった。また、教室の後ろの壁を利用して、「ことわざコーナー」を作った。新しく見つけたり、覚えたりしたことわざを付箋紙に書いて貼っていくという活動を仕組んだことで、本を手にする機会がより増え、児童がたくさんのことわざに触れることができた。



写真 1 【言葉の本コーナー】

本時の授業では、「ことわざブック」をつくる前段階として、友だちの作成した「ことわざ紹介シート」のいいところを見つけ合う活動を行った。児童の見方や考え方を広げるために授業の初めに、教師による本の紹介を取り入れた。教師による本の紹介と児童によるいいところ見つけの二つの活動によりイラスト・四コマ漫画・クイズ・使い方・同じ（反対）意味の



写真 2 【ことわざコーナー】

ことわざ集め・言葉の解説・まねまねことわざ・ことわざの由来など友

だちの使っている分かりやすい紹介方法に気付かせ、全体に広げることができた。その他にも単元に入る前に用意した本の中から「ぜひ読んで欲しい」という本を数冊選んでおき、計画的にクイズなどを取り入れながら紹介していった。教師による本の紹介によって、児童の本に対する興味・関心がさらに高まったように思う。本時の授業においては、「世界のことわざ」という本の紹介を行った。

(イ) 「並列情報型」「日常発展型」を中心に

a 単元名 「じどう車ずかん」をつくらう

平成 25 年 10 月 31 日 実践

教材文 光村図書 1 年下 「じどう車くらべ」

b 本単元・本時における「並列情報型」「日常発展型」について

本時は教材文の読み取りとその後の自動車図鑑作成の間の内容である。自動車図鑑を書く時の抵抗を減らすことと、読解と読書生活をつなげるために、参考資料（図 1）から、「仕事」と「作り」を見つける活動を行った。

様々な数値や、言葉が混在する資料の中から、自動車図鑑を書くにあたって、必要な言葉に注目させるため、参考資料を一部削除したり平易な表現に書きなおしたりして児童に提示した。



写真 3 【児童に提示した参考資料】

また、写真から「作り」を見つけたり、教材文に登場したバスやトラック、クレーン車の作りを書いたりすることができた。書くことができた「仕事」や「作り」は、単元の初めに作成した「仕事マップ」と「作りマップ」に書き加えることで、児童の語彙の拡充や知識の広がりを実感させることもできた。その他にも、本時だけでなく、教材文の読み取りを行った後には、教室に単元が始まる前から設置してある「自動車の本コーナー」から本を開き、「仕事」と「作り」が「どこに書いてあるか。」「どのように書いてあるか。」をグループで確かめる時間を設定した。そのことも児童の本に対する抵抗を減らしたり、その後の各自での自動車図鑑作成する時の大きな手助けとなった。



写真4【資料を確認する場面】

*指導案の一部

1 単元とその指導について

○ 本教材「自動車くらべ」は、自動車を題材にし、新しい見方（仕事とつくり）を知らせる文章である。また、写真と本文を結びつけながら学習していくことで、説明的な文章の基本的な文型の使い方を学ばせ、物事を関連づけてとらえたり、内容を正確に読み取ったりする力を身につけさせたい。さらに、調べて図鑑にする学習活動に発展させることで、基本的な文型を確実に使えるようにさせたり、読書の幅を広げさせたりすることを目的としている。

教材文1「自動車くらべ」は、一文が短く、説明も同じパターンになっている。文章全体の構成は、第1のまとまりが「紹介と問い」、第2～4のまとまりが、「バスや乗用車」、「トラック」、「クレーン車」について「仕事」と「作り」の2点を説明する形で書かれている。

また、教材文2「いろいろな船」は、それぞれの船について、①「役目」②「つくり」③「人がすること」と述べてあり、最後に「まとめの文」として「いろいろな船が、それぞれの役目に合うようにつくられている」ことを伝える内容となっている。

「自動車くらべ」と「いろいろな船」の二つの教材文の項目を比べ読みさせ、「問い」や「まとめの文」などを補う活動へと導く。また、それを自動車図鑑に生かすことによって、児童はまとめの文などを加えた、より分かりやすい説明文の書き方を身につけることができると考える。

○ 本学級の児童は、二学期に行った「見つけた」の学習の中では、色分けした教材文を参考にしながら、「問い」「ヒント」「説明」「答え」をほとんどの児童が書くことができた。ただ、文と文のつながりを意識して書いている児童はまだ少ない。日記指導では、生活作文と観察日記（所観中心）の両方を書かせることで書き慣れを図っているところである。音読については、追い読み、交代読み、一文読み等を行っているので、すらすらと読める児童が増えてきている。しかし、文章をひとまとまりの語や文として読めない拾い読みの児童もいる。

○ 本単元の指導にあたって、以下の点に留意する。

〈読書活動を高めるために〉

- ・自動車への興味・関心を高め、発展的な学習活動につなげるため、自動車に関する1年生向けの図鑑や本を用意する。
- ・参考資料の図鑑から「仕事」と「作り」を見つける学習の時には、児童たちの実態にあうように、ふりがなをふったり、難語句を平易な表現に書き直しをしたりして、読みやすくする工夫を行う。

〈読む力を高めるために〉

- ・初読の後に、知っている自動車の「仕事」と「作り」に関するイメージマップを作成することで、車に対する知識の広がりや語彙の広がりを図る。
- ・「～するしごとをしています。」「～あります。」「～います。」といった文末表現を意識させる。

- ・「自動車図鑑」を書く時の抵抗感をなくすと同時に、読解と読書生活をつなげるため、参考資料の図鑑（はしご）から「仕事」と「作り」を見つける学習を、図鑑作りの初めに取り入れる。
- ・2つの説明文を比べて事例にあう問いやまとめの文などを書く活動を取り入れることで、文章構成に気づかせ、「自動車図鑑作り」につなげる。
- ・2つの教材文の各形式段落を、色を分けて提示することで、2つの教材文の6つの文の役目に気づかせ、共通点や相違点について発言ができるようにする。

2 めざす読書の姿と手立て

〈めざす読書の姿〉

読む本のジャンルを広げたり、本などから進んで情報を得ようとしたりする児童。

〈手立て〉

- 自動車への興味・関心を高め、学習活動につなげるために、自動車に関する本を用意し、児童がいつでも手にすることができる環境をつくる（事前動機型）
- 教材文に出てくることがらを図鑑で確認したり、読解と読書生活とをつなげるために、参考資料の図鑑から、「仕事」と「作り」をみつける活動を單元の中に設定したりする。（並列情報型）
- 学級で自動車図鑑を作り、できた図鑑を図書室に展示することで達成感を持たせたり、次への活動の意欲を高めたりする。（日常発展型）

3 指導計画（全12時間） 本時5 / 12

次	時	学習活動	指導・支援	読書の活用の仕方
一次	1	○文章を読み、学習計画を立てる。	○「仕事」と「作り」のイメージイメージマップを作ることにより、図鑑作りに生かす。 ○自動車図鑑を作ることを知らせる。	・読書に関心を持つ。 ・目的を持つ。
二次	2	○バスと乗用車の仕事と作りを読み取る。 ○トラックの仕事と作りを読み取る。	○「～仕事をしています。」（仕事）と「～あります。」（つくり）の文末表現をおさえる。 ○「そのために」という接続語をおさえ、仕事とのつながりを意識させ他の作りをみつけさせる。 ○児童が課題意識を持ち、「仕事」と「つくり」のつながりを考えながら文を読んだり書いたりできるように、まとめの段階で、他の参考資料から仕事や作りを見つけさせる。 ○軽トラックの絵を提示し比較させることで、仕事と関係した「作り」に気付かせる。	・読書に関心を持つ。 ・資料からより詳しく調べる。 ・友だちの考えや資料と比べる。
	3	○クレーン車の仕事と作りを読み取る。	○「～います。」（つくり）の文末表現をおさえる。 ○クレーン車の絵を提示し比較させることで、仕事と関係した「作り」に気付かせる。	・表現方法を増やす。
	4		○「～たり、～たり」の使い方や、「～ように」という付け加えの表現方法を押さえる。 ○文の役目ごとに色分けした全文を提示し、読みのまとめを行う。	
三次	⑤ 本時	○はしご車の仕事と作りを読み取る。	○資料の中から、これまでに学んだ6つの文の役目や文末表現を手がかりに、「仕事」と「作り」を見つけさせる。	・資料からより詳しく調べる。 ・友だちの考えや

			○「仕事」と「作り」を意識させるために、教材文で学習した構成や文の役目に当てはめて説明の文章を書かせる。	資料をもとに自分の考えを生かす。 ・表現を増やす
四次	6	○ばらばらにした「いろいろな船」の文章を正しく並べ替える。	○並べ替える時に、一度に全部をするのではなく、少しずつ文章を提示することで、「やくめ」や「つくり」のつながりを理解させる。	・資料からより詳しく調べる。
	7		○色別カードを使い、文の役割が色で区別できるようにする。また、新出の「まとめの文」「人がすること」をおさえる。	
	8	○自動車図鑑の載せる車を選ぶ	○「それぞれの役目や作りをいれかえてもよいか」と問いかけることで、「まとめの文」の「役目にあうように」をおさえる。 ○資料の中から、これまでに学んだ6つの文の役目や文末表現を手がかりに、「仕事」と「作り」を見つけさせる。	・友だちの考えや資料と比べる。 ・表現方法を増やす。
五次	9	○「自動車くらべ」と「いろいろな船」の説明文を比べて、文章構成に気づき、それぞれの問いとまとめの文を書く。	○色別カードを使い、文の役割が色で区別できるようにする。	・友だちの考えや資料をもとに自分の考えに生かす。
	10		○2つの教材の相違点を発表させることで、構成の違いに気づかせる。	
	11	○自分の好きな自動車の説明文を書く。	○「仕事」と「作り」を意識させるために、教材文で学習した構成や文の役目に当てはめて説明の文章を書かせる。 ○「仕事」と「作り」をなかなか見つけきれない児童には、友達と相談させたり、自動車イメージマップを参考にさせたりする。	
	12	○自動車図鑑発表会を開く。	○感想をカードに書いてプレゼントさせる。	・表現に生かす

4 本時の学習（5／12）

- (1) 目標
- ◇学習目標
 - ・はしご車の「仕事」と「作り」を説明する文を考えて書こう。
 - 指導目標
 - ・資料をもとにはしご車についての「仕事」と「作り」について、文末表現や接続語をつかって説明する文章を書くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教師の指導・支援（評価☆）
つかむ	1. 前時で書いたクレーン車の「仕事」と「作り」を発表する。	○「仕事」と「作り」を意識した文章構成や文末表現をそろえたことを確認する。 ○修飾語を付け加えることによって、分かりやすい文章になることを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>はしご車は、どんな「しごと」をしていますか。 そのために、どんな「つくり」になっていますか。</p> </div>	
見通しを持つ	2. はしご車の資料から、「車の名前」「仕事」を探し出し、ワークシ	○全体で確認しながら、文末表現を合わせて、ワークシートに書かせる。 ○資料を活用した児童には、見つけたところに赤鉛筆で線を引かせる。

	トに書く。	「〇〇は～する仕事をしています。」 ☆資料や生活経験を活用して、「仕事」を正しく読み取っている。→見つけることができない児童には、主語の「はしご車」をまず見つけさせ、○で囲ませる →イメージマップを利用したり、生活経験の中から想起させたりして、気づかせる。
深める	3 「作り」を資料から探して、ワークシートに書く。 〈例〉タイヤ B：タイヤがあります A：大きいタイヤがあります AA：重いはしごも運べるよう大きいタイヤがあります	○「そのために」という接続語を書かせてから見つけさせる。 ○すぐに書かず、赤鉛筆で見つけた「作り」に線を引かせる。
まとめる	4 自分が見つけた「つくり」、発表をする。 5 本時を振り返る。	○「仕事に合わせての『つくり』であるかどうか」で評価を行う。 ○読み取ることができたかどうか、簡単な自己評価を行う。 ○読み取るときに、気をつけることを発表させる。

(2) 読書活動を支える環境づくり

①お話タイム 毎月第4月曜日 朝の時間

全職員による読み語り

各クラス教師2名ずつ担当を決め、担任以外のクラスで読み語りをする。いろんな先生にお話（紙芝居、絵本、エプロンシアター）を読んでもらう。

②読み語り 毎週木曜日

やよい会や保護者、地域の方による読み語り

③北明小おすすめ100選の本

（保護者、教師、地域の方のアンケートをもとに選んだ100冊）

図書館に100選のコーナーを作り、児童、保護者、地域の方に貸し出している。児童には100選のリスト冊子を配布し、読み終わったら担任にサインをもらうようにして、継続するようにしている。また、図書館前に100選の表を掲示し、読み終わったらシールをはり、人気の本はどれか分かるようにしている。

④多読賞 20冊、50冊、80冊、110冊本を借りたら賞状を渡す。

10月末までの貸し出し状況 80冊以上… 126名

⑤北明小おすすめの本コーナー

2階中央廊下にコーナーを作り、本を並べいすをおき、いつでも児童が気軽に本を手取るスペースを作った。

おすすめの本コーナーでは児童のおすすめの本や先生のおすすめ本などの展示をした。時期によって展示する内容を変えた。本が展示されると児童は興味深そうにながめていた。

⑥読書活動を行うことでの読書環境づくり

単元終了後に児童に達成感を持たせたり、様々な文章に触れて興味や関心を広げ自分の文章に生かしたりしてほしいと願い、児童の目が届く図書室や廊下に掲示物や特集コーナーを設けた。

特集コーナーに新しく書いた作品を入れるたびに、児童が手に取り、友だちと読みあっている光景がよくあった。一年生が一学期に作った「動物クイズ」を六年生が解いている光景。自分の作品だけでなく他の児



写真5 【やよい会による読み語り】



写真6 【おすすめの本100選看板】



写真7 【おすすめの本コーナー】

童の作品を読み、表現のよさに気づく光景。季節や時事に応じた本の紹介コーナーで本を手にする光景。様々な本や文章にに触れる機会を多く設けることで、児童の興味や関心を高めることができた。



資料① 5年生の体験活動ガイドブック



資料② 5年生の偉人の紹介文



資料③ 特設した本の紹介コーナー



資料④ 3年生の地域の
お店紹介カード



資料⑤ 1年生作成の
動物クイズ図鑑



資料⑥ 動物クイズを
読みあう児童

7 研究の成果と課題

本研究は、小学校の読書活動において、授業の中で、3つの型による読書活動を導入することにより、児童の読書への関心・意欲を高め、言語活動を通して、読解力や表現活動の広がりをねらったものである。本校の児童は、個人により読むジャンルが決まっていたり、物語のみに偏ったり、写真集など文字の少ないものばかり好んで読んでいたりするなど読書傾向が偏る。小さい頃から本に親しむ環境にあった児童とそうでない児童がいて、すでに大きな関心の差が存在することが明らかになった。そこで、次の点に留意した。

- ① 児童の実態や単元の特性に応じた指導計画を作成し、言語活動や表現活動を取り入れること。
- ② 読書が嫌いな児童は、本を開くことに抵抗があり、読書時間も貸し出し冊数も少ないことから、授業や学校生活場面での読書を奨励し、日常的に音読・家読を設定すること。また、本を身近に感じられるような環境を整えること。
- ③ 地域の図書館から本をまとめて借りたり、地域の方々による読み聞かせや児童が地域に出かけて表現活動を行ったりするなど連携を図ること。

[成果]

[児童の変容] ここでは全校分と、2年生と5年生を抽出して比較する。

	7月	12月
好き	50%	66%
どちらかといえば好き	32%	28%
どちらでもない	10%	3%
どちらかといえば嫌い	6%	3%
嫌い	3%	0%

表① 読書の好き嫌い

	7月	12月
2時間以上	5%	9%
1～2時間	7%	5%
30分～1時間	15%	8%
30分くらい	36%	42%
10分くらい	32%	37%
ほとんどしない	5%	0%

表② 1日の読書量

【表現活動】2年読みがたり・一言コマーシャル・地域での発表/5年人物事典の作成・役割読み 共通：同じ作者のほかの本を読む

	学校全体	2年生		5年生	
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
	7月	7月	12月	7月	12月
童話・物語	45%	47%	69%	79%	100%
昔話・絵本	20%	38%	31%	6%	17%
図鑑	33%	34%	53%	15%	6%
事典・辞典	13%	19%	84%	0%	0%
写真集	11%	22%	16%	12%	28%
詩	13%	9%	31%	6%	6%
伝記	26%	22%	13%	91%	31%
歴史	18%	25%	38%	27%	9%
なぞなぞ・クイズ	35%	50%	53%	15%	3%
その他	19%	19%	28%	9%	6%

【成果】

① 読書が好きな児童が増えた。
12月には、「好き、どちらかといえば好き」をあわせると全体の94%になる。

② 毎日の読書が定着してきた。
63%の児童が毎日30分以上本を読んでいる。

③ 読書活動を取り入れた授業でそのジャンルの本を手にするようになった。
本校の読書傾向は、1位 童話・物語 2位 なぞなぞ・クイズ 3位 図鑑
であったが2年生、5年生いずれも7月の授業後のアンケートでは、授業に関連する

表③ 読書傾向（問い「よく読む本はどんな本ですか。」複数回答有）

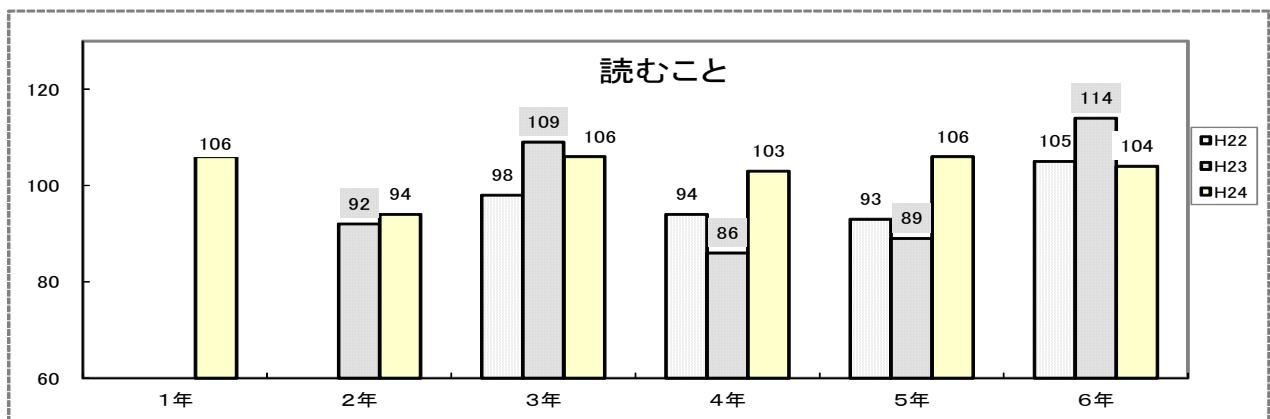
「楽しい」「どちらかといえば楽しい」「楽しくない」の3択から「楽しい」を選択した割合

	全校7月	2年生7月	2年生12月	5年生7月	5年生12月
好きなページを読む 読み語りをする	35%	91%	84%	32%	19%
読書郵便や本の帯を作る	40%	50%	0%	66%	25%
紙芝居や読書新聞を作る	38%	72%	63%	28%	16%
劇にする	49%	69%	84%	28%	78%
調べたことを他の学年や地域の人に知らせる	36%	59%	72%	28%	13%
一言コマーシャル、クイズ、本の推薦文を書く	53%	69%	63%	60%	63%
同じ作者のほかの本を読んで紹介する	28%	69%	69%	12%	38%

表④読書後の表現活動で楽しいと答えた割合

①読解力の向上

CRT検査の平成22年度から24年度までの国語「読むことの領域」の全学年の推移である。平成22年度と比較して平成24年度には、2年生以外ほとんどの学年で「読むことの領域の平均が100を越えた（全国平均値を100としたとき）。2年生も23年度から24年度は向上した。



グラフ①【CRT検査の結果（H22～H24：国語の読むことの領域）】

②体験した表現活動は、楽しいと感じ、そのことでさらに新たな本を手にする。劇やクイズは、どの学年でも楽しい活動として位置づけられ、低学年では、読み語りや発表に人気がある。読書活動のゴールとして相手意識や目的意識を持たせた表現活動を取り入れると児童は、楽しみながら学習するので、有効な手だてといえる。

③学校図書館の利用と貸し出し冊数がのびた。 2012年と2013年（11月末までの学校図書館利用者の比較）

11月末現在：100冊以上38名（全校児童の18%）〈前年同期 100冊以上 3名（全校児童の1.3%）〉になった。

「毎日学校図書館を訪れる」と回答した児童は、7月66%が12月82%になった。

④教室に地域の図書館からたくさんの本を持ち込み、発達段階に応じた表現活動を行い、発表や展示場面を設定すると読書への興味や学習意欲を高めることができる。

⑤単元構成に事前動機型、並列情報型、日常発展型の読書活動を取り入れたことについて

事前動機型の授業では、事前に、多くの本を教室に持ち込み、いつでも、本を手にすることができるようにした。それまで、そのジャンルの本を手にしていなかった児童も、教師の読み語りで物語の世界に誘うことで、授業後に物語や絵本をよく読むようになった。

並列情報型の授業では、授業と並行して自分の選んだ本を読み、学習したことを生かした活動を行った。友だちからのお勧めの本で、読書意欲が高まり、授業と並行して伝記をよく読むようになった。また、国語科だけでなく理科や社会でも読書活動を取り入れた授業を行うことで「毎日図書館に行く」児童が多くなった。

【教師の変容】

- ① 単元構成の中で、どのような本を教室に持ち込むかを意識し、本を探す、資料を手にする機会が増えた。
- ② 児童の手にする本を気にかけるようになり、学校図書館へ児童とともに足を運ぶ機会が増えた。
- ③ どのような表現活動と結びつけたら、児童が楽しんで学習に参加するのかを考えるようになった。
- ④ 初めての表現活動では、サンプルを考えたり、資料がない場合は、児童にあった自作資料を考えたりした。

【課題】

- ・教科等の年間指導計画の中で、読書活動がどのように発達し、どの時期にどのような読書指導と読書活動の連携が効果的であるのか。各学年の読書活動の系統性を分析し、指導に生かしていくことが課題である。
- ・伝えあう活動においては、話し合う力や語彙力不足のために理解した内容を十分表現に生かせないでいる。話の高め合い方や書く活動の充実などさらに指導が必要である。
- ・国語科の物語文に偏る傾向があったので、説明的文章など他の単元での活用も考えていきたい。
- ・図鑑の使い方、百科事典の使い方など物語以外の本での調べ方などを学年で系統的に学習する機会をいつ、どのように持つのか。他の教科で取り入れた読書活動を含め、北明小学校の読書活動モデルを考える。
- ・家庭での読書は、個人差が大きい。親子読書も呼びかけだけでなく、読書週間のときのようにカードを作るなど学校からの意図的計画的な働きかけが必要である。
- ・地域の図書館に出かけるなど学校図書館以外に足を運ぶことは少ないので、今後も本を通じた交流を考えたい。

【引用・参考文献】

ブックトーク研究会編（2007） 小学校1年～6年生 授業が生きるブックトーク 一声社

植松 雅美編著（2010） 小学校 思考力・判断力・表現力が育つ 学校図書館の新しい授業 学事出版

太田克子・村田伸宏 「群馬・国語教育を語る会」著（2010）読書のカー国語授業と学校図書館との連携協力 三省堂

川源一郎編（2008） 読解力UP 小学校全体で取り組む読書プラン 明治図書

